

048

災害時に備えた
救援物資輸送体制の構築

取組主体

前山倉庫株式会社

従業員数

想定災害

実施地域

500人

全般

茨城県

・所在市・近隣市と災害時の緊急救援輸送に関する協定を締結し、2015年9月関東・東北豪雨でも支援物資の保管場所として、同社倉庫を活用した。

1 取組の概要

救援物資の輸送・保管ができる倉庫の提供

- ・運送・倉庫業を営む前山倉庫株式会社は、東日本大震災をきっかけに、茨城県坂東市・常総市と2014年に「災害時等における緊急救援輸送に関する協定」を締結し、災害時の多方面への物流に関する救護輸送を実施する仕組みを作った。

2 取組の特徴（取組の狙い、工夫した点、差別化した点等）

広域物資拠点の活用

- ・同社は空港や港湾、高速道路へのアクセスに優れた首都圏のほぼ中央に、物流拠点を設置している。都心から50km圏内に19か所、総保管面積63,601m²の広大な倉庫スペースを確保しており、常磐自動車道「谷和原インターチェンジ」と首都圏中央連絡自動車道（圏央道）「坂東インターチェンジ」「常総インターチェンジ」が至近にあるため、関東・首都圏への拠点として、物流の面で抜群の立地といえる。
- ・中でも神田山倉庫（茨城県坂東市神田山）と石下倉庫（茨城県常総市古間木）は、広域物資拠点の認定を受けており、非常用発電設備・臨時発着用ヘリパッド・自家用給油所・衛星電話などを完備している。東日本大震災などの経験を通じ、物流事業者による救援物資の輸送・保管の重要性が認識された今、災害に強い物流システムの構築に向けて、有効活用したい。



前山下妻の臨時発着用ヘリポート

3 取組の効果

2015年関東・東北豪雨時の被災地支援

- ・協定をもとに、常総市に、支援物資の保管場所として、同社の倉庫を活用することを進言し、保管を実施した。
- ・清掃ボランティアの移動手段としてバスを提供した。
- ・一部地区の避難所には、「パンの缶詰」を提供したほか、同社のヘリポートの一部を自衛隊に貸与し、ヘリの離発着と航空管制に利用いただいた。



救援物資を倉庫に集積



2015年関東・東北豪雨時の被災地支援

4 取組への思い

- ・東日本大震災にて、同社が所属していた倉庫業青年経営者協議会にて、支援物資の発送が行われた。その際に、同社が拠点の一つとなり、物資をピストン輸送しており、物流の重要性を再認識させられた。
- ・一方で、東日本大震災では、全国から寄せられた支援物資が、被災地の物資集積拠点で滞留してしまい、被災者に円滑な物資供給がされないという課題が発生していた。そのような課題意識もあり、緊急救護輸送が即座に行える仕組みが必要と考え、所在市・近隣市での協定締結に至った。

5 防災・減災以外の効果

- ・同社が「パンの缶詰」などを備蓄し、実際に避難所で使われたことを受けて、取引金融機関や損害保険会社などからも、「パンの缶詰」を備蓄したいという要望が相次いだ。それをきっかけに同社の関係人口が増加した。

6 現状の課題・今後の展開等

- ・日ごろから災害への危機感を持ち続けることは容易ではなく課題でもあるが、万が一の際に社会へ貢献できるよう、非常用発電設備・臨時発着用ヘリパッド・自家用給油所・衛星電話などを準備している。

7 周囲の声

- ・「被災地支援を実施するなど、防災意識の高い同社から、『パンの缶詰』の備蓄の話聞き、自分の会社でも備蓄したいと思い、同社に相談をした。」（地域の取引企業）

担当者の声

- ・身の丈以上のことはできないが、私たちにできる範囲のことを、中小企業が得意とする柔軟かつ迅速な対応で、最大限に行っていきたい。このような取組を、物流業界全体にも広げていけたらとも考えている。

問合せ先	動画	サイト URL
前山倉庫株式会社 法人番号：6050001014501 電話番号：0297-36-8003 FAX：0297-36-8006 URL：https://www.maeyama-soko.jp	—	